

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570600421		
法人名	特定非営利活動法人よりあいの会		
事業所名	グループホームよりあい		
所在地	宮崎県日向市大字平岩8624番地1		
自己評価作成日	平成25年7月20日	評価結果市町村受理日	平成25年9月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成25年8月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○常に職員が利用者に寄り添い笑顔が多く見られる。
 ○ホーム内は、夜間以外にはオープンにしてあり、施設はしていない。
 ○「よりあい便り」を開設当初から刊行しており、家族にも喜ばれている。
 ○眠剤・抗精神剤をできる限り使用しない。「おむつゼロ」に取り組んでいる。
 ○利用者一人ひとりの「できること」の取組をいろんな場面設定をして行っている。
 ○利用者の尊厳を守ること、身体拘束をしないサービスを提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営者・管理者のホーム運営の理念・方針が明確であり、職員もその考え方に基づいて利用者支援を行っている。特に、家族の絆を大切にしており、毎月ホーム便りを発行し、家族との連絡が密に行われており、来訪の頻度も多い。また、地域に開かれたホームとして、地区とのかかわりも頻繁に行っており、地域住民へ認知症に関する理解を深める働きかけを行いながら、協力関係を構築してきている。利用者の中には、一人で外に出る場合もあるが、職員の配慮により自由な行動がとれるように支援している。万が一の場合は、SOS徘徊ネットワークなど、関係機関と協力し対応できている。利用者・家族にとっても、安心して過ごせる環境にあり、利用者本位の支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	24年度の反省を踏まえて、職員全員で今年度の理念を考えた。その理念を共有して、実践につなげている。	毎年、年度末に職員間で日々の実践を振り返り、確認し合うとともに、次のステップへの理念をつくりながら、実践につないでいる。今年度は、①利用者本位、②地域に開かれた事業所、③家族の絆を大切にすることを柱として取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	津波を想定した避難訓練等にも参加し、地域とつながりながら、地域の一員として日常的に交流している。	自治会にも加入しており、区の清掃や避難訓練等にも利用者と共に参加しており、地域の一員として日常的な交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、認知症の人の理解や支援の方法について話し、地域の人に理解を求めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際、評価への取り組み状況等について、報告や話し合いを行い、そこで出た意見を吸い上げ、サービス向上に取り組んでいる。	会議には、行政、区長、民生委員、消防団、家族の方々の参加を得ることで、地域からもホームが理解されてきている。例として、地域の独居高齢者に対してホームを居場所として提供するなどの取組も見られている。	会議をより充実させていくためにも、地域包括支援センターの参加を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議に出席していただき、施設の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝え、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町村との連携やスムーズに行われている。平成23年にはスプリンクラー設置の相談を行い、設置済である。また、制度に関する疑問点などについてもすぐに相談し、早い対応がなされており、協力関係が良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみで、日中はしていない。身体拘束をしないケアにも取り組んでいる。	現在、外に出かける行動の方が3名程いるが、玄関にカギをかけることなく、職員がすぐに見守りながら外出に付き添うなどの対応をしている。利用者本位の理念が徹底されており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を設け、事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	常に学ぶ機会を持ち、それらの制度が必要な利用者がある場合は、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、承諾のサインをもらうようにしている。入所後も不安、疑問があれば十分時間を取って説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム便り等を利用し、各家庭へ運営方針を知らせている。面会に来られた時などに要望等を出してもらうようにしている。	家族には、毎月ホーム便りを届け報告している。また、電話・手紙・メールなど、その家族に応じた連絡手段をもち、家族からの意見を集約しやすい取組を行っている。遠方の家族が来た場合には、利用者の部屋に宿泊できるよう、家族の意見を反映し対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年度末に職員一人一人に反省や意見、要望等を書いて提出してもらっている。	毎月1回、夜間に職員全員で会議を行い、ケアの在り方について意見を集約し、改善策を検討している。年度末には職員の自己評価を行うことと、要望などを提示してもらい、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況等には、常に気配りをしながら職員が働きやすい環境を考え、条件の整備につとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回以上の会議を通じて、職員一人一人の力量が発揮でき、向上心を持ってもらうように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会は質の向上につながるので、行っていきたい。今年度の交流先は未定である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困りごと、要望等、話を聞き、安心を確保するための関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が困っていることや要望等を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応は難しいが、本人と家族等がまず、必要としている支援は何なのかを見極め、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の意思を尊重し、「暮らしをともにする者同士」という関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、利用者の状況を家族に伝え、ともに本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみの場所へ出かけ、本人らしい生活ができ、関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用者の出身地区の祭りなどへ出かけ、家族と会う機会を設けている。その際には、他の利用者も招待するなどの取組も行っている。また、利用者の親戚がホームに来訪された場合など、居室にて楽しい時間を過ごせるような環境をつくっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が支えあい、助け合う場面も見られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、連絡や状況の報告をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや意向を把握し、本人本位の方向に少しでも近づけるよう支援している。	回想法により、昔の生活テーマを話題として、本人の思いを引き出すように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握を行い、その人らしい暮らし方、生活歴を把握し、より良いサービスにつなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの有する力を、少しでも引き出してもらえるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成、モニタリングにおいては本人、家族の意見も踏まえたうえで、現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心としつつ、利用者の担当職員が利用者の状況を把握しながら、共に考え介護計画を作成している。その際には、本人も参加して、意向を確認しながらケアの方向性を導き出している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	会議(月1回)を通して、常に記録の記入の仕方について話し合いを持ち、実践と記録が生かされるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対しては、即対応できるよう、すぐに話し合いを持っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区長、消防団長等、地域の方々と交えた運営推進会議を開催した際、利用者の様子を見てもらうことで、安心して生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の方の希望を尊重し、かかりつけ医と事業所の関係を築き、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者それぞれにかかりつけ医があり、家族が通院支援のできない場合は、ホームが対応している。病状により医療的処置が必要な場合は、看護師が医療機関と連携し、適切な受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	とらえた情報や気づいたことを、看護師に伝え、相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診に主治医との情報交換や相談に努め、病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い時期から家族と話し合いを持ち、事業所でできることを説明しながら、支援に取り組んでいる。	家族とは、早い時期からホームができることについて説明を行い対応している。重度化・終末期の対応はできる限り取り組んでいきたい意向ではあるが、医療的ケアの必要性がある場合には、家族と話し合い、適切な医療機関につないでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の方々と一緒に、公民館にて救命の手順や応急手当等の訓練を行い、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月に一回、火災や地震、水害等に備え、避難訓練を行っている。地域の消防団や地域住民との協力体制を築いている。	月1回の訓練を利用者と共に行っている。また、地区主催の防災訓練にも参加し、実際に地域の避難場所まで行き、課題などを地域住民と検討している。一方では、火災を出さない工夫として、火元に関連する場所の定時チェック体制を導入している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの利用者に対しての言葉かけや対応には常に気をつけている。	利用者への声かけや対応について、時に命令口調になることもあるため、職員間で気づいた時は、その時々で支援のあり方について検討し、接遇研修などを企画、改善に向けて取り組んでいる。	新人職員を含めて、言葉かけへの対応など、さらなる質の向上に取り組んでいくことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当職員が利用者本人と相談し、毎月目標を決め、それに基づいた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全員で同じことを行うのではなく、自分の得意分野で、一人ひとりのペースでレクリエーション等を支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日ごろから身だしなみは特に気をつけており、外出時にはおしゃれをしていただくよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の工夫、いろいろ、食べやすさなど、いろいろと工夫しながら、食事を楽しんでいただいている。下膳等も行っていたいでいる。	庭で栽培している野菜などを収穫し、利用者と共に下ごしらえや片づけをしている。食事時間をゆっくりもち、職員・利用者と話しながら楽しんで食事をしてもらえるようにしている。時には、庭先でバーベキューなどを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態を常日頃から観察しており、栄養面や水分の確保に努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつのパターンを把握しており、一人ひとりの排泄自立の支援を行っている。	一人ひとりの排せつパターンを把握し、おむつ使用の場合でも日中は、トイレでの排せつを行っている。利用者の仕草などを細かく把握し、尿意・便意のサインを見逃さないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のチェックを行い、食事での排便を促せるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に応じた入浴の支援を行っている。入浴時間は、利用者の希望に合った時間帯にしている。	入浴は午後から夜8時までを可能としており、毎日全員が入浴している。開設当初から、お茶がら湯を導入している。時には、近くの温泉にも出かけるなど、楽しむことのできる入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況によって休息をしてもらったり、安心して眠れるよう声かけや寄り添うなどの支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で一人ひとりの薬や服薬の支援後の変化などを報告し合い、確認していくよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとを計画し、生き生きとした日々が過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の機会をつくり、家族と一緒に出かけたり、地域の行事等にはできるだけ外出できるように計画し、支援している。	季節に応じた行楽施設に外出している。また、地域の祭りや行事にも参加している。日々の外出としては、夕方に15分程度の散歩を取り入れている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しいものがないか、常に利用者の声に耳を傾け、一緒に買い物等ができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話でのやり取り、手紙のやり取り、メールでのやり取り等を毎月行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くような置物や一人ひとりの居室が落ち着く場所であるように、常に気をつけている。居室においては、温度計を設置し、室温に気をつけている。	共用の空間には、ソファが置かれている。また、廊下の隅々には木製のベンチが置かれており、それぞれの利用者が自由な場所でゆっくり落ち着ける空間づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりすごせるように、マッサージ機やソファを置いて、居心地のよい場所づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンス、ベッド等の使い慣れたものを引き続き利用していただくことで、その人らしい部屋になるようにしている。また、家族の協力も得るようにしている。	利用者のなじみのたんすやベッドなどが持ち込まれている。お位はいなどもタンスの上に置かれ、利用者の日課としてお供え物をあげるなど、本人が安心して過ごせる居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活するそれぞれの場所がわかるように工夫している。		